



福岡県連協活動報告

福岡県学童保育連絡協議会

〒805-0067 北九州市八幡東区祇園2丁目4-22
TEL093-662-6000・FAX093-662-6006
E-mail gakuforen@fukuoka-gkd.jp
発行・福岡県学童保育連絡協議会



福岡県学童保育連絡協議会（以下、福岡県連協）に加盟して下さっておられるクラブ・個人・賛助会員の皆様、一人一人の子どもが安心安全に生活できる学童保育の為、日頃よりご尽力してくださっていることに感謝し、合わせて県連協へのご協力ありがとうございます。

11/5 大木町出前講座研修 『学童保育指導員の役割と仕事とは』 講師（笠）

私が指導員になった20数年前は学童保育の制度はありませんでした。子育て中の核家族の親は学童保育を切実に求め、つくり運動として声を上げた結果、各地に作られていきました。学童保育施策が大きく変わる節目は2012年の児童福祉法の改正、子ども子育て支援法の制定です。今年の3月に策定されたばかりの運営指針には「指導員の役割・仕事の基本」が明示されています。

今回は運営指針の第1章総則より子どもの状況や発達段階を考慮すること、子どもの最善の利益を考慮し、学校や地域、保護者と連携して子育てを支援する役割を担う事を主題に前半学び合いました。

後半では支援員に求められる仕事の基本について運営指針に基づいた学び合いをした後、「子どもや保護者の不安を安心に変えるために何を大事にしたら良いのか」「毎日の仕事と実務」のグループワークを行いました。安全管理と衛生管理については運営指針第6章にも載っていますが、日常的な事としてマニュアル（リスト）チェックの意見交換をしました。

アンケートに毎日の業務を振り返り基本的な仕事内容を再確認できたとの意見もありました。運営指針はH19年厚労省が策定した放課後児童クラブガイドラインを見直し、新たな事業の目的・役割に照らして検討し、作成されています。今回、大木町で講座を持たせてもらい、運営指針は日々の実践につなげていきたいものであり、内容はもちろんのこと指針が作られるようになった経過も見過ごせない事だと思いました。

（講師、文責；笠）

11/7～8 第50回全国学童保育研究集会in大阪

今年50回目となる全国研は、参加者が5500人を超え、保護者・支援員他学童保育に関わる関係者や研究者、学童保育施策の整備に日々奮闘してくださっている方々が集結し、研修や議論をかわしました。福岡県内からは42名が参加。福岡県連の役員は4つの分科会の世話人となり全国研に貢献してきました。ここでは笠先生の報告を掲載します。

◎「子ども理解と学童保育の生活づくり【子どもをとらえる視点と働きかけ・指導】」

この分科会は、参加者が実践交流を行いながら見だしていく分科会です。まず、実践レポートを報告して貰い、レポートから見える支援員の視点等を出し合いました。レポーターとしては、スキんシップを取る子どもに対して打開策がなかなか出来ず、現象を見るしかなかったため、そこから見方を変えたい思いがありました。以下質疑応答の中で出た意見です。

・特に苦手な子の捉え方の振り返りは、同僚と共に理解した方がよいのではないか。・学校や家では出せない願望を学童で発散している。・スキンシップとすることに抵抗のある子どもや、高学年では「聞いて」と問いかける子どもも少しずつ接してあげると満足して離れる。子どもは指導員によって使い分けもするので、その場に応じた刺激を与えると色々な変化がある。・距離感を保ってほしい時にはある程度離して間を置くが、そこで終わるのでなく遊びでつながっていく。・距離感を縮めるように子どもの方も工夫している事がある。子どもの年齢層が違うのでいろんな視点を指導員はもらえる。

その他、集団の中で強がっている子どもの事、女の子同士のいざこざ、高学年女子とのコミュニケーションの難しさについて悩んでいる事を各テーマにして、子どもをどのようにとらえたらよいのか、指導員はどのように関わったらよいのかについて意見交換しました。

どこの学童でも言えることですが、いろんな感情を持った子ども達を支援するには、その関わりを目に見える形に表していく事が、大変だけど必要だと思いました。今回、初めて全国研に参加して世話人の仕事も初めて務めさせていただき、経験年数や地域の違いがあっても交流することに意義があり、大いに刺激を貰いました。特に印象に残ったのは開会行事の時に、子ども達がけん玉をリズムに合わせて一生懸命していた事と1～10号まで「アメちゃん速報」が配られた事です。自分たちの実践をすぐ形に表せるのが、全国研なのだ!!!と感動して帰りました。(世話人、文責；笠)

11/22 AM10:00～ 第40回全国学童保育指導員学校<in九州>
第3回実行委員会 (まとめ)

第40回全国学童保育指導員学校<in九州>の福岡県連の実行委員会のまとめをしました。全体の参加者は1003人(福岡県453人・長崎県198人・熊本県123人・佐賀県118人・鹿児島県40人・大分県52人・宮崎県17人・沖縄県2人)昨年より多くの参加で終える事が出来ました。実行委員、当日スタッフの方々ご苦労様でした。記念講演の山喜高秀氏の講演は今までにない新鮮な方向からの講演で、非常に良かった。来年は是非分科会でお会いしたい。各講座については、来期に向けての意見が出されました。

<来期に向けて>

- ・来年は実施が5月なので、新人支援員が多く参加することを考えると、基礎的な分科会を多く企画しなくていいか。
- ・新制度に伴う学童保育の変革をまだ理解できていない自治体や運営者に向けての分科会も必要なのは？ 説明の機会は多い方がよい。
- ・あそびの実践の講座はひきつづき必要。
- ・山喜先生、栗石先生、山下先生の分科会はする方向に検討してほしい。
- ・障害のある子に対する支援、理解についての講座は参加者が多く、これからも必要な講座、指導員もなやんでいる、専門的に日常にアドバイスがもてる場所が必要。

第41回全国保育指導員学校
<in九州>

2016年5月29日(日)
春日市クローバープラザ

11/22 PM13:00～ 第3回福岡県学童保育研究集会実行委員会

メインテーマ 学童保育は共同の子育て！変わらないものは命の輝き

・記念講演講師：市川光太郎 氏 演題＝「子どもの命と虐待」今日的な課題です

- ・分科会＝数は8分科会と特別講座（①父母会活動②学童運営・行政の働きかけ③新制度による課題④指導員の仕事⑤特別なニーズを持つ子・・・集団づくり⑥子ども同士のコミュニケーション⑦子どもの権利⑧高学年の学童生活、特別講座＝遊びのひろば）

助言者、内容について検討中です。実行委員会は分科会議論で盛り上がってまーす！！



11/25 築上町出前講座研修 講師（佐伯）

11/25 築上町出前講座研修報告

『学童保育支援員の役割と仕事とは』

運営指針に沿って、支援員の役割と仕事の確認をしました。

運営指針の中で、私たち支援員は、一人ひとりに高い技能と専門性、日々の自己研鑽、自己啓発を求められています。20年前の見守り保育から放課後児童支援員の資格を持つことで自覚と責任を持ち、日々の保育に生かせるよう、子どもの捉え方やコミュニケーションのワークなど学び合いました。

（文責 佐伯）

日本の学童ほいく誌！

保育誌の編集に関わって

（文責 秀南）

今回ご縁があって保育誌の編集委員をさせていただくことになりましたが、私にとっては非常にまずかったです。それは、自分が今まで思っていた保育観を壊さなければならなくなりそうだからです。編集会議では、それは熱い議論がなされていました。みなさん子どものために、保護者のためにとすごく頑張って学童を作って来られていることがひしひしと伝わってきました。私もそれなりにですが、一生懸命考え、学童に関わってきたつもりでした。しかし、そこにいるみなさんは私とは格段にレベルが違いました。無知過ぎる自分が恥ずかしかったです。現在、既存の保育観を壊したいという自分と壊したくないという自分とで日々葛藤をしています。編集委員の任期が終わったときに、自分の考えがどうなっているか、今からとても楽しみです。

来年も県研究集会実行委員会、役員会、出前講座などなど、…今月も県連は頑張っていますので、よろしくお願ひします。

全国研究集会感想第2弾

第50回全国学童保育研究集会に参加してきました。全体会は100人近くの指導員、保護者による太鼓と、府内の学童保育に通う子ども約1200人のダンスけん玉、平和の祈りを込めた歌で始まりました。特別報告では特に東日本大震災で被災した、宮城県の指導員からは、子どもたちが震災のときに受けた心の傷が予想外に大きいことを、涙ながらに報告されました。被災した地域の生活の復旧・復興の歩みがつづいていることを忘れてはいけなと改めて考えさせられました。遠い地九州から復興に向けた努力を支えるために、何ができるかみんな考えていきたいと思いました。

